

先進医療としての腹腔鏡下広汎子宮全摘術の実態に関する調査研究について

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査の目的】

早期子宮頸がんに対する根治手術として従来開腹広汎子宮全摘術が施行されてきましたが、平成26年12月より腹腔鏡下広汎子宮全摘術が先進医療として認可され、現在多くの施設で行われています。腹腔鏡下広汎子宮全摘術は開腹広汎子宮全摘術に比較し、技術的に安全であるだけでなく、腫瘍学的にも妥当な術式であると報告されていますがそのほとんどは海外からのものであり、わが国からの報告はほとんどありません。すなわち現在わが国で行われている腹腔鏡下広汎子宮全摘術の現状は不明といわざるを得ません。そこで現在先進医療として施行されている腹腔鏡下広汎子宮全摘術の現状を把握する目的でこの調査研究を計画しました。

【対象】

平成26年12月から平成28年12月の間に、早期子宮頸癌（1A2期、1B1期、2A1期）に対して先進医療として腹腔鏡下広汎子宮全摘術を施行した方。全250例

【調査項目】

患者背景

年齢、身長、体重、臨床進行期、最大腫瘍径

手術

術式、骨盤神経温存の有無、手術時間、出血量、開腹移行の有無、輸血の有無、術中合併症

手術の内容

手術終了時の腹腔内写真（リンパ節郭清の状態ならびに基靭帯摘出後の状態）、摘出検体の写真、基靭帯長、膈壁長、摘出リンパ節個数

術後

術後病理診断、術後合併症、補助療法の有無とその内容、入院日数、術後残尿が50ml以下までの日数、再入院、再手術の有無

予後

再発の有無、再発部位（再発確認日）、生存の有無（最終生存確認日）

【調査期間】

平成28年11月1日～平成29年6月30日（調査状況により調査期間を延長する可能性があります）

【研究機関・組織】

特定非営利活動法人 婦人科悪性腫瘍研究機構 (JGOG) 子宮頸がん委員会

【代表者連絡先】

がん研有明病院 婦人科 金尾祐之

〒135-8550 東京都江東区有明 3-8-31

Tel: 03-3520-0111 (代表)

Fax: 03-3570-0343

E-mail hiroyuki.kanao@jfcf.or.jp

大阪大学医学部附属病院 産婦人科 小林栄仁

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2 番 15 号

Tel: 06-6879-3351 (代表)

Fax: 06-6879-3359

E-mail ekobayashi@gyne.med.osaka-u.ac.jp